

第3回島田市女性議会質問・提案に対する取組報告

1番 櫻井 久美子 さんの質問・提案に対する取組状況

◆質問・提案①

放課後児童クラブについて、申込数が増加しているということですが、定員を超えているクラブについての対策はどうでしょうか。

・答弁内容

現在は36人が待機している状況で、拡張工事や、教室の借用による部屋の拡張で対応する予定です。

初倉南小学校では夏休みを利用し、拡張工事に着手し、9月には定員を30人から54人に増員する予定となっています。島田第一小学校では、来年度の拡張工事に向け、今年度、実施設計を行います。その他の学校につきましても、社会福祉施設等の活用を含め調整しています。

金谷小学校には、小学校内の障害児放課後児童クラブにこにことという施設があり、そこで使用していた教室を今年度から借用しているため、指導員の確保ができ次第、放課後児童クラブを拡張していく予定です。

・取組状況

平成28年度の放課後児童クラブの整備状況等について

- ・初倉南小学校 7月～9月整備済み 定員30人から54人へ拡張
- ・島田第一小学校 実施設計施行済み 平成29年度夏整備予定
- ・金谷小学校 平成29年4月から定員60人から90人に拡張
- ・民営クラブ（2クラブ）が平成29年4月から、新設定員34人

女性議会にて答弁した内容以上の拡張をしています。急増している申込者に整備が追いつかない状況が続いています。今後も引き続き利用者児童の動向に合わせ、整備を進めていきます。

◆質問・提案②

地域の方々が気軽に放課後児童クラブで子どもたちと関わりが持てるようにしていただくことはできませんか。

・答弁内容

一部の放課後児童クラブでは、近隣住民の方や団体など地域の皆様と交流を行っています。引き続き、地域の皆様と交流ができるクラブ運営を行い、全てのクラブで交流ができるように進めていきたいと思っております。

・取組状況

全てのクラブで交流ができるよう放課後児童クラブの主任指導員を通じ、各クラブへ地域の方と交流の機会を設けるよう促しました。

◆質問・提案③

今後、市では子育て支援についてどのような計画を考えていますか。

・答弁内容

共働きやひとり親家庭など支援を必要とする家庭も増えているため、今後も引き続き放課後児童クラブなどの居場所づくりが必要であると考えています。

・取組状況

子どもの居場所づくりは、社会や家庭の状況により、さまざまな事業が必要であると考えています。このため、放課後児童クラブは、今後も重要事業の一つとして市民の希望に応じた拡大・整備を進めていきます。

◆質問・提案④

高齢者が孤立しないよう、介護や支援が必要になる前からの地域とのつながりや信頼関係がとても大切だと思います。地域での声かけや見守り活動などは、行政だけに頼るのではなく、地域の住民が推進していく必要があると思いますが、対策は考えていますか。

・答弁内容

地域での声かけや見守り活動を推進していくために、地域における支え合い体制の構築に向け、市民向けの生活支援普及啓発講演会や、生活支援サービスの担い手の養成講座

を開催し、市民ボランティアの養成に努めていきたいと考えています。

住民主体の生活支援サービスを地域で実施するための仕組みづくりを推進するため、今年度、静岡県立大学と連携し、道悦島地区をモデルにして調査研究を行っています。今後は他の地区での生活支援サービスの普及に活用していきたいと考えています。

・取組状況

地域における支え合い体制の構築に向け、平成 28 年度から各中学校区に生活支援コーディネーターを配置しています。

市と生活支援コーディネーターが協力し、各中学校区に「生活支援をつなぐ会」を開催し地域での情報交換と、話し合いの場を設ける取組をはじめるとともに、市民向けの生活支援普及啓発講演会や、生活支援サービスの担い手養成講座を開催しました。

静岡県立大学との連携事業である生活支援サービスの立ち上げ支援のための調査研究においては、モデル地区の道悦島における住民主体サービスの立ち上げの過程等をまとめたガイドブックを作製しました。今後は他の地区での普及に活用する予定となっています。

2番 道川 綿未 さんの質問・提案に対する取組状況

◆質問・提案①

他地域では、移住者を巻き込み積極的にまちづくりに関わってもらい、地域住民とともに地域活性化の一端を担っている例があります。島田市でもそのような流れをつくっていくために、行政の役割をどのように考えていますか。

・答弁内容

新たな取り組みとして、今回の第 2 次島田市総合計画策定作業において川根地区に移住された方の御意見をいただくため、策定委員をお願いしました。

地域おこし協力隊が移住者目線で制作した「住んでごしまだ」のウェブサイトなども活用する中、移住者のまちづくりに関する取り組み事例や地域おこし協力隊の活動紹介をしていきたいと考えています。

・取組状況

首都圏から川根地区に移住された方に総合計画の策定委員をお願いし、移住者の立場で御意見をいただき、第二次総合計画の策定に生かしています。

まちづくりの取組事例や地域おこし協力隊の活動紹介については、「住んでごしまだ

(ウェブサイト)」のほか、現在、地域おこし協力隊の移住体験を参考に、移住者向けのリーフレットの作製に着手し、「移住者から見た島田市の魅力」や「移住者（隊員を含む）の体験談」、「移住者の疑問に答えるQ&A」などを情報発信していく予定です。

◆質問・提案②

外国人観光客に島田市の魅力をわかりやすく伝える必要があると思いますが、他地域にはない島田市の魅力とはどのように考えますか。

・答弁内容

現在、島田市緑茶化計画をブランドメッセージとして、国内外に情報発信しています。島田市の持つお茶文化や東海道の宿場町としての歴史文化とともに、こうした中山間地域の魅力を積極的に発信していきたいと考えています。

・取組状況

- ・島田市公式ホームページへ外国人向けの観光情報を英語の電子書籍で掲載し、市内の情報発信に務め、島田市へのインバウンド促進を図っています。
- ・観光協会ホームページにおいても情報発信を行っています。
- ・台湾を中心とした海外プロモーションや、台湾メディアの招聘事業を実施し、島田市の紹介をしました。
- ・台湾教育旅行の宿泊場所及び体験場所として、交流センターささまを紹介しています。

◆質問・提案③

今まで観光資源とされていなかった地域資源を、新しい視点で活用することについて、どのように考えますか。

・答弁内容

中山間地域において、古民家や山村文化を活用して長期滞在を希望する外国人や都会暮らしの日本人のニーズに応えていくことは、地元の意向や所有者の理解など地域を巻き込んでの体制づくりが課題となります。今後、国内での先進事例を研究し、島田市における取り組みについて検討していきたいと考えます。

・取組状況

国内の先進事例について、研究を行っています。

3番 菱谷 真美子 さんの質問・提案に対する取組状況

◆質問・提案①

公民連携によるまちの活性化について、遊休不動産や空き店舗を活用した起業や経営に関して、市はどのような取り組みを行っていますか

・答弁内容

本年度から2年間かけて策定する中心市街地活性化基本計画の中で、空き店舗の実態調査を実施し、リノベーションによるまちづくりの手法を取り入れていきたいと考えています。

・取組状況

・現在、中心市街地の空き店舗調査を実施し、空き店舗の現状把握と、オーナーへヒアリングによる意向を確認することで、中心市街地活性化基本計画を策定するための基礎データを収集しています。

・平成29年度よりこれらの基礎データに基づき、商工会議所や商店街連合会などの関係団体や事業者の皆さんと協議会組織を設立し、中心市街地活性化基本計画を策定していきます。

◆質問・提案②

市が所有する道路、公園、公共施設などをビジネスに活用する考えはありますか。

・答弁内容

昨年からは、公共施設や遊休不動産の利活用や公民連携のノウハウを若手職員に学ばせています。

民間の方が活動しやすくなるような仕組みをつくるのがこれからの行政の仕事。公民連携の手法を取り入れながら、市民の皆様の活動の場を広げていきたいと考えています。

・取組状況

平成29年3月14日に「ヒトづくり、場づくりからはじまる、リノベーションまちづくり」トークライブを島田市産業支援センター「おびサポ」と共催して開催し、リノベーションによるまちづくりについて周知を図りました。

◆質問・提案③

リノベーションによるまちづくりに必要な要素がそろった駅前地区で、官民連携で成功事例をつくっていききたいと考えています。(提案)

・取組状況

・女性議会での菱谷さんとのやり取りを契機に、市と「ソライロ local&design」との(通称)島田駅前サンカク公園(正式名称:駅前緑地)を活かした商業活用化の取組を公民連携で進めています。

・4月29日には、島田駅前サンカク公園でのイベントを予定しています。

4番 青山 江湖 さんの質問・提案に対する取組状況

◆質問・提案①

島田市の中でバス交通が特に不便だと思われる地域はどこですか。また、外出する手段のない人々や交通弱者のための対策はありますか。

・答弁内容

川根地域では65歳以上で体が不自由な方を対象に通院、日用品の購入及び施設への通所などの日常生活に不便が生じないように軽四輪自動車を使った移動支援サービスを行っています。今後は、地域の皆様が相互に助け合う移動サービスの仕組みをつくっていく必要があります。例えば市からNPOや自治会などに車をお貸しし、ガソリン代や修繕費などの維持費を行政が負担するということなどの支援を検討していきたいと考えています。

・取組状況

バス交通が不便だと思われる地域については、引き続きNPOや地元自治会が主体となる運行システムの構築を目指しています。

特に伊久身地区については、平成30年度からの運行を目指して積極的に地元と関わっていきます。その他、川根地区、初倉地区に対しても、地元自治会等が主体となる運行システムについて説明を行っています。

また、運行システムの構築には、運行の許可が必要になる場合もあり、簡単には実現しません。静岡運輸支局に概略を伝えてありますので、具体的な案がまとまり次第、協議を

行っていきます。

5番 児玉 絵美 さんの質問・提案に対する取組状況

◆質問・提案①

島田市におけるコミュニティスクールの導入の予定はありますか。あるとしたら、具体的な内容や時期、ないとしたら、導入しない理由や課題はありますか。

・答弁内容

島田市では学校評議員制度が地域と連携した学校運営として定着している上、地域コーディネーターを中心とした学校支援地域本部事業というものが既に第二中学区で成果を上げています。このような実績をもとに、今後、島田市に合ったコミュニティスクールを研究していきたいと考えています。

・取組状況

「島田市立小学校及び中学校の在り方検討委員会」からの提言書の中に、地域との連携の重要性が謳われています。平成29年度に新たな組織を立ち上げ、具体的な方策等を検討していく予定であり、その中でコミュニティスクールも話題になっていくと思われれます。

◆質問・提案②

今後、地域と学校がお互いの役割を理解し合いながら、もっと双方が本当の意味で開き、連携していくための共通の目標のもとに、地域コーディネーターの導入が島田市全域に早期に広がっていくことを期待しています

・答弁内容

地域の皆様方の人材活用、または資源の活用ということについて、地域コーディネーターの力というのは大変大きいと思います。教育委員会としても計画的にコーディネーターの養成をし、地域の力を有効に生かす方策を考えていきたいと思ひます

・取組状況

平成29年度の「夢育・地育推進事業」では、初倉地区を研究指定地区として、地域と学校との連携に重点的に取り組んでいきます。その中でコーディネーターを活用する方策を検討していきます。

6番 山河 美鈴 さんの質問・提案に対する取組状況

◆質問・提案①

若い世代が高齢者福祉の問題に対してもっと興味を持って、積極的に活動に参加することが大切だと思います。市内の小・中学生や高校生に島田市の現状をわかってもらい、将来を考える機会があればいいと思いますが、そのような施策はありますか。

・答弁内容

若い世代への啓発事業として以下の3事業を説明

- ・認知症サポーター養成講座の実施
- ・生活支援サービス立ち上げガイドブック作製（静岡県立大学連携事業）
- ・高齢者保健福祉計画策定のための多世代ワークショップの開催

・取組状況

【認知症サポーター養成講座の実施】

市民を対象に認知症の症状や対応法についての講座を実施しました。

なお、平成28年度の保育園・小学校・中学校の実施状況は次のとおりです。

- ① 保育園 1か所（年長児17人受講）
- ② 小学校 8か所（399人受講）
- ③ 中学校 3か所（452人受講）

【静岡県立大学連携事業 生活支援サービス体制づくり調査研究】

静岡県立大学の学生と協力し、道悦島をモデル地区として、住民同士の支え合いの体制を立ち上げる際に参考となるガイドブックを作製しました。

学生が、道悦島の立ち上げ準備会での運営の支援、支え合い活動の場での聞き取り調査のほか、市内の居場所やサロン等の活動取材などを行い、高齢者をとりまく環境や課題と地域の支え合いについて認識を深めました。

現在、モデル地区の道悦島では住民主体のサービスが開始されています。

今後は他の地域において活用し、住民同士の支え合い体制の構築を進めていきます。

【多世代ワークショップの開催】

開催日：平成29年2月4日（土）13時半～16時半

参加者：15人

年 代：10代…2人、20代…3人、30代…2人、40代…1人、50代…7人

概 要：「お年寄りが地域で暮らし続けられるために…自分には何ができるか？」をテーマに、5人ずつ3グループに分かれ意見交換をしました。最後はグループごとに意見をまとめて発表し、投票を行いました。立場や年代を超えて活発な意見交換があり、最も支持を集めた意見は「過保護にならないサポート」（本人の意向やできることを尊重したさりげない支援）でした。ワークショップで出された意見は、平成29年度に策定する第8次高齢者保健福祉計画に生かしていきます。

7番 馬場 晶子 さんの質問・提案に対する取組状況

◆質問・提案①

選挙権の対象年齢が18歳以上となり、投票率向上のために工夫されていることはありますか。

・答弁内容

静岡県選挙管理委員会と連携して、市内の高等学校を対象に模擬投票を含めた出前事業が実施されております。今年度においてもこのような啓発活動を実施する予定であると伺っています。

新たに有権者となった人たちに対して、有権者となったことを自覚していただくとともに、投票に行く意義を理解してもらうことを目的に、バースデーカードと小冊子を送付しています。これまでは二十歳の誕生日を迎えて新たに有権者となった人たちに対して送付していましたが、今回の選挙権年齢の引き下げに合わせて18歳から19歳の対象者約2,000人にも同様のカードと冊子を送付しました。島田市選挙管理委員会には、今後も若年層に対して政治や選挙への関心を高め、投票率向上に結びつけていくような取り組みをお願いしています。

・取組状況

これまで行ってきた出前授業、選挙機材の貸出し、バースデーカードの送付等による啓発事業を継続し、今後も同様の事業を実施する予定です。

第3回女性議会以後の取り組み

●出前授業の実施

平成28年9月30日 島田工業高等学校（1～3年生 700人）

●選挙機材の貸出し

平成28年9月21日 金谷高等学校

平成 28 年 9 月 29 日 島田第二中学校

平成 28 年 10 月 26 日 島田商業高等学校（定時制）

●バースデーカード・啓発冊子の送付

平成 28 年 8 月から、従来の 20 歳を 18 歳に変更して実施。

送付人数 8 月～2 月 714 人

◆質問・提案②

高校生のころから市民活動に参加できるようなプランはありますか。

・答弁内容

地域の中でボランティア活動を展開しようと考えている青年に実践的な学習の機会を提供するため、青年ボランティア講座を実施しています。今年度はこの受講の経験を生かし子供たちと田植えを行い、稲刈りや収穫祭などを開催する予定です。

・取組状況

平成 28 年度は青年ボランティア講座として計 5 回の講座を行いました。講師は島田市青年サークルに依頼し、受講者同士の交流や、「げんきキッズわくわくクラブ」で行われた田植え、稲刈り、収穫祭のお手伝い等を行いました。受講者は自分に与えられた役割を責任を持ってこなし、田植えなど子ども達と触れ合う機会には積極的に声を掛け、ボランティアを楽しんでいるようでした。

子ども達からは、青年ボランティア講座の受講生は憧れるお兄さん、お姉さんとして映り、今後子ども達がその憧れるお兄さん、お姉さんのようになりたいと思い、ボランティア活動に積極的に参加するような好循環が生まれるよう、今後も当講座を実施していく予定です。

◆質問・提案③

県外の大学に進学した島田市出身者が地元での就職を考えた場合、公務員試験も受けたいが、民間は就職活動が早まっているのに、公務員試験は従来どおりの日程であることで、公務員の志望を断念する学生がいると聞きます。島田市の採用試験をもう少し早めることはできないでしょうか。

・答弁内容

職員採用試験は近接のまちとの併願も多く、受験者のとり合いになってしまう可能性があるため、県内 21 市中 16 市が同じ日に実施しています。

民間の就職活動が早まっているのは十分承知しております。市では、大学3年生ぐらいの方をターゲットにして、少し早目に島田市の仕事を知ってもらう工夫もしていきたいと考えています。

・取組状況

平成29年度に実施する職員採用試験を見据えて、平成28年10月以降、各種説明会へ積極的に出展しました。また、例年作製しているポスターについても、作製時期を前倒しし、4月下旬に作成する予定です。

各種説明会については、具体的には次のとおりです。

(1) 市内各企業と学生の交流会（志太2市連携U I Jターン就職促進事業）

日 時 平成28年10月23日（日）

場 所 プラザおおるり

来場者 12人（うち保護者7人）

(2) シゴトフェア

日 時 平成28年11月18日（金）

場 所 グランシップ

来場者 21人（新卒7人、既卒14人）

(3) 静岡県U・Iターン業界説明会

日 時 平成29年1月14日（土）

場 所 大崎ブライトコアホール（東京都品川区）

来場者 10人（新卒10人）

(4) マイナビ転職セミナー

日 時 平成29年1月14日（土）

場 所 グランシップ

来場者 17人（既卒17人）

(5) シゴトフェア

日 時 平成29年2月15日（水）

場 所 グランシップ

来場者 17人（新卒7人、既卒10人）

(6) S J C ナビ業界研究セミナー 志太榛原フォーラム

日 時 平成29年2月27日（月）

場 所 藤枝市文化センター

来場者 38人（新卒38人）